

## 第1回「ICT超高齢社会構想会議WG」議事要旨

1. 日時:平成24年12月21日(金)10:00~12:00

2. 場所:総務省第1会議室

3. 出席者:

(1)構成員

金子主査、池谷構成員、石井構成員、石垣構成員、石原構成員、泉構成員、伊藤構成員、今井構成員、岩崎構成員、宇佐見構成員、大石構成員、大木構成員、梶原構成員、銭形構成員、神崎構成員、神田構成員、木俣構成員、吉川構成員、久野構成員、黒須構成員、小林構成員、園田構成員、高橋構成員、田上構成員、田澤構成員、萩田構成員(主査代理)、檜山構成員、藤沢構成員

※ なお、オブザーバとして、ICT超高齢社会構想会議から、小尾座長代理、近藤構成員が出席

(2)総務省

阪本政策統括官、谷脇大臣官房審議官、佐藤情報通信利用促進課長、佐藤情報通信利用促進課課長補佐、吉田情報流通高度化推進室長、井戸情報流通高度化推進室課長補佐

4. 議事要旨:

(1) 開会

(2) 阪本政策統括官挨拶

阪本政策統括官より挨拶があった。

(3) 議事

① 開催要項、議事の取扱いについて

事務局より資料1-1、1-2に基づき、開催要綱、議事の取扱いについて説明が行われた。また、開催要綱に基づき、金子主査から萩田構成員を主査代理に指名し、了承された。

② 事務局説明

事務局より資料1-3に基づき、12月7日(金)の第1回ICT超高齢社会構想会議の開催結果について説明が行われた。

③ 構成員によるプレゼンテーション

檜山構成員より資料1-4、岩崎構成員より資料1-5、園田構成員より資料1-6、高橋構成員より資料1-7に基づきそれぞれプレゼンテーションが行われた。

④ 事務局説明

事務局より資料1-8に基づき、本会議での主な検討項目(案)について説明が行われた。

## ⑤ 意見交換

構成員からのプレゼンテーション及び事務局からの説明を踏まえ、本WGで検討すべき内容や方向性について、各構成員から以下の意見が出された。

(藤沢構成員)

- ・ 被災地の課題を考えたときに最も重要となるのは、いかに情報を届けるか、また、発信したいというニーズもある。高齢化が突然進んでしまった被災地の復興を促進する意味でも、会議の場での議論を被災地でも展開し、実証実験を行うべきである。

(黒須構成員)

- ・ ICTありきといったスタンスで議論が進まないよう気を付けるべきである。人間とは目標を達成するために人工物(ICT)を使うというアクティブな存在であり、そういったところを質的に捉えるような調査をしないと単に産業のためにやることになってしまうのではないかと危惧される。

(久野構成員)

- ・ 現在の高齢者対策と10年後を見据えた対策では視点が異なるので、その点を整理する必要があるのではないかと。ニーズだけで見るのではなく、データの見方が重要である。

(田澤構成員)

- ・ 10年後を見据えるのであれば、今の50代の意識やICT知識をベースに働ける環境を考えていく必要がある。介護で離職するケースなど会社で仕事をしている人が在宅で仕事ができ、これまでの知識や働き方を継続していくための社会づくりにICTがどう活用できるかに注力すべきである。

(小林構成員)

- ・ 働きたくなくてもらうような仕組、働きたいというニーズをくみ取るだけでなく、働きたい気持ちになってもらえる仕組を考えていく必要がある。

(田上構成員)

- ・ 高齢者だけでなく、社会ニーズがあつて、それを実現するために後ろで動いているのがICTである。サービスが前に出て、それを補完するためのものであり、ICTを前面に出す必要はないと思われる。
- ・ ICTは時間と距離を縮めるものであり、社会参加や社会に意義を持つといったことが中心になれば、やれることは多くあるのではないかと。

(神田構成員)

- ・ 就労をキーワードに、自助を促すといった、自助をリードさせることを仕掛けていくのも面白いのではないかと。
- ・ 海外展開といった話もあり、海外と一緒に実証実験を行うということも考えた方がよい。

(大木構成員)

- ・ ICTという技術の方は、あまり議論する必要がなく、実際にマーケットが存在する日本でいかにサービスをつくり、金が回る仕組を考えることが大事である。今の50代は10年後ほとんどアクティブシニアであり、この方々が求めているものを議論でまとめていけば、マネタイズが動くビジネスモデルができあがるのではないかと。
- ・ 海外というグローバルな視点からも、ICTが進んでいる韓国と一緒にやるというのもよいのではないかと。

(石垣構成員)

- ・ ICTの新しい目的として、利便性や効率の追求ではなく、リアルな人のつながりを強化することを目的としたICTの使い方を目指し、自助・共助・公助のバランスをとるためにも、高齢者の地域参画、社会参画がキーワードになると考える。
- ・ 高齢者に対する動機付けが一番大事であり、また、高齢者単独ではなく、多世代交流という中で活動を設計し、それをICTで支えるというアプローチが必要である。

(宇佐見構成員)

- ・ ICTが裏方であるとの意見はそのとおりであり、一番接点となるユーザーインターフェースが大事である。

(木俵構成員)

- ・ 高齢者のサポートという意味では、個人情報がある程度公開してでもサービスを受けられるというモデルなども必要であると考ええる。

(萩田主査代理)

- ・ ロボットの実験を通じての市民の声などからは、もっと楽しくしてほしいとか、男女での反応が異なるといった点があり、このような視点も考慮して進めてはどうかと考えている。

#### ⑥ 事務局説明

事務局より資料1-9に基づき、今後のスケジュールについて説明が行われた。

(4) 閉会

以上